



ゴールは次へのスタートである

校長 田屋 多恵子

三月を迎え、朝晩の冷え込みはまだあるものの、日差しに春の温かさを垣間見る日々が増えてきました。「ゴールは次へのスタートである」という言葉があるように六年生も卒業式に向けて練習を始めました。卒業式は小学校生活の大切なまとめであるとともに、新しい中学校生活への準備ともいえます。各学年も、一年間の学習のまとめに取り組みながら、一つ上の学年への期待に胸を膨らませています。

先日は、羽沢小学校の学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。ゴールは次へのスタートであるという言葉からも、結果をご報告させていただきます。「そう思う」「ややそう思う」の合計でみてみました。まず児童のアンケートの結果から、高い値を示したものは、①人権の取り組みをしている95.2% ②ペア学年の活動は楽しい88.8% ③授業が分かりやすい87.2% ④学校は楽しい84.8%でありました。また、低めであった項目は、①めあてをもって学習している69.8% ②体力向上に向けて取り組んでいる76.5%という結果になりました。一方保護者の方にご協力いただいた結果は、①異学年同士の関わり（ペア学年）を深める取組を行っている92.1% ②地域の方々と関わりながら羽沢の地域の良さや特徴学ぶ活動を行っている89.9% ③学校日より等で情報発信を積極的に行っているが88.8% ④子どもたちに分かりやすい授業をおこなっている87.7%となりました。また評価が低めであったものは、①体力向上をさせる取組を行なっていますかは60.1% ②子どもたちの問題や悩みなど個々に合わせた適切な支援を行っていますかは64.8%にとどまっていました。

これに教職員のアンケートを加えてみてみますと、3者（児童・保護者・教職員）が共通して高い値であったものは、「子どもたちにわかりやすい授業をおこなっている」と「ペア（たてわり）学年の取組がよい」であり、また共通して低めであったものは、「体力を向上させる取組」でした。このことから次年度も引き続き地域の良さや特徴を生かした授業づくり、また子どもたちにわかりやすい授業を目指すとともにペア学年（たてわり）の活動に力を入れていきます。また課題としてあがっていた体力向上の取組についても現在の長縄集会だけでなく工夫をしていきたいと思えます。

また人権教育については、児童は95.2%が取り組んでいると回答し、教師が100%に近い値で実施していると回答しているにもかかわらず、保護者の評価が69%にとどまっていることから積極的に活動を発信したり実施の取組をお知らせしたりできればと考えています。

また児童の「学校は楽しい」は、84.8%で調査した項目の中では高めでしたが、あまり楽しくないとらえている子どももいることや、保護者の方のアンケートからも「子どもたちの問題や悩みに合わせて適切な支援をおこなっている」についてもまだ十分とは言えない面もあり、より一層子ども一人一人をしっかりと見とり、支援や指導をしていく必要があることが示されました。この結果を学校でしっかりと共有し、次年度、少しでも改善が図れるようにしていきたいと思えます。

最後に、本校の日々の教育活動にご理解ご支援いただきました保護者の皆様、さらにPTA役員の皆様、また地域の方々に心より感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。